



よるんちょう 議会だより

第145号

2022年／令和4年11月2日

発行 与論町議会
編集 広報常任委員会
〒891-9301

鹿児島県大島郡与論町茶花1418-1

TEL 0997(97)3201

FAX 0997(97)4196



3年振りに開催された町民体育大会の選手宣誓

一般会計補正予算

2億4739万円を追加

(P2)

9月
定例会

所管事務調査報告

(P4)

決算審査での主な質疑

(P5~P7)

一般質問

5人が登壇!町政を問う

(P9~P13)

一般会計予算は 54億6843万円 (2億4739万円を追加)

主な補正予算

老人福祉費	1398万円
介護保険事業費	4993万円
塵芥処理費	987万円
学校給食センター整備事業	△5085万円

令和四年第三回定例会を九月五日から九月十三日までの九日間の日程で開いた。

九月五日は所管事務調査報告の後、各常任委員会委員及び議会運営委員の選任を行った。その後、一般質問が行われ5名の議員が登壇し、町政全般について活発な議論を交わした。その後、議案審議を行い、条例2件、補正予算4件、その他4件を原案のとおり可決した。その後、令和3年度決算7件を決算審査特別委員会に付託した。

九月十三日は、最終本会議を開き、決算7件を認定し、沖永良部与論地区広域事務組合議会議員の選挙を行った。国頭村との姉妹盟約締結を可決し、監査委員の選任と教育委員会委員の任命に同意して会議を閉じた。

一般会計補正予算

会計名	補正前	補正額	計
一般会計	52億2103万円	2億4739万円	54億6843万円

特別会計補正予算

会計名	補正前	補正額	計
国民健康保険特別会計	6億7607万円	9270万円	7億6877万円
介護保険特別会計	6億9493万円	79万円	6億9572万円
後期高齢者医療特別会計	8073万円	△44万円	8029万円

※ 切り捨てによる記載のため合計額は必ずしも一致しない。



議 会 構 成

議長	副議長	監査委員
高田豊繁	沖野一雄	福地元一郎

総務厚生文教常任委員会

委員長	副委員長	委員		
林隆壽	林敏治	福地元一郎	大田英勝	高田豊繁

環境経済建設常任委員会

委員長	副委員長	委員		
野口靖夫	原栄徳	南有隆	喜山康三	沖野一雄

広報常任委員会

委員長	副委員長	委員		
大田英勝	南有隆	原栄徳	喜山康三	林隆壽

議会運営委員会

委員長	副委員長	委員		
野口靖夫	林隆壽	大田英勝	沖野一雄	林敏治

沖永良部与論地区広域事務組合議員

南有隆	喜山康三	沖野一雄
-----	------	------

所管環境経済建設常任委員会 査報告

「牛の糞尿を適正な方法によって有効な資源として活用できないか」、「牛舎からの悪臭、糞尿による地下水や海洋汚染防止対策をどうするか」、「堆肥センターの堆肥は、雑草の種子が除去されず耕地へ散布され、雑草が繁殖し困っている農家が多い」等、持続可能な畜産業の振興と、魅力ある観光地づくりという標語はいまだ達成される気配はない。

(株)カミチクファームの牛舎

令和3年5月10日、



カミチクファームの牛舎

南さつま市金峰町の(株)カミチクファームの牛舎を調査した。

ここは、飼料製造から良質完熟堆肥(糞尿の処理)製造までを一貫作業システム化されたファームである。牛舎を一望し、無臭で清潔感あふれる環境衛生が保全されていることに感心した。糞尿の流出防止の敷材に九州全域の契約農家から取り寄せたモミ、ワラ等

を粉碎し、土着菌を混入していた。水分含有量40%でサラサラ堆肥化するために、九州全域の契約農家から送られてきた粗飼料等を活用したTMR発酵飼料を与えている。さらに、肉は自社で生産し、国内販売はもとより、海外にも販路を拡大している。

(株)本部長 本部長

令和4年7月27日、10時から宮崎県新富町の(株)本部農場バイオガスプラントを調査した。ここは、宮崎県のほぼ中央の沿岸地帯に位置し、風光明媚な田園地帯にある。牛の糞尿を原料としたバイオガスプラントで発電



新富町のバイオガスプラント

し、その売電収入を得ることが主である。発電機からの排熱を利用して発酵槽や生物脱硫装置へ送り、除湿や加熱をして完熟堆肥も製造している。近年の環境悪化問題や地球温暖化現象にともない、地域の学生を対象とした体験学習やインターン生の受け入れ、若い就農者育成にも力を入れている。

県議会3階会議室での勉強会

同日15時30分から、県議会3階会議室で、



県議会会議室での勉強会

嬉久県議同席のもと、「かごしま未来創造ビジョン 脱炭素社会の実現と豊かな自然との共生」、バイオマスエネルギーの利用をテーマに勉強会を行った。政府は、脱炭素社会の実現を目指し、温室効果ガスの排出量を2030年度までに13年度比46%削減し、50年度までに実質ゼロとする目標達成のため、社会経済や産業構造の転換を加速させている。今後、国の活発な行動が予想される中で、アンテナを高くして情報収集に努める必要がある。

(株)山有財部工場

7月28日午前中、財部町の(株)山有財部工場を調査した。本工場は超高温好気性発酵システム、YM菌(微生物)の力で有機物を物質(堆肥化)に変換させるといふ画期的な方法で完熟堆肥を製造しており、製品は「カントリースーパー」という名で商標登録され販売されている。

調査の結果、①大型投資が必要ない。②既存の堆肥センターの重機で対応できる。③ほかに有望な菌が出現しても、本町の堆肥センターで対応できる。以上のことから、一連の調査を通して、この(株)山有のシステム施設は当委員会の求めてきた所期の目的に適しているのではないかと結論に至った。

令和三年度

決算審査での主な質疑

決算審査特別委員会

一般会計

総務企画・会計課

問 地域イントラネット基盤整備事業で、光の現在の加入者数とNTTへの譲渡の現況はどうなっているか。

答 令和3年度3月31日時点で1009件。年明けの譲渡予定で協議を行っている。



役場旧庁舎跡地

問 役場旧庁舎の解体工事が行われているが、跡地利用はどうなっているのか。

答 これまでアンケート調査を行い、様々な意見をもらっているが

具体的な計画はこれからである。

問 台風襲来時等用備蓄ガソリン事業のガソリンは、何日分備蓄しているのか。

答 与論町で1カ月平均約48キロリットルほど使用しており、常時備蓄は、80キロリットル〜100キロリットルである。

問 ふるさと納税者の分析や寄付された方へのお礼状とか、総括的に担当しているのはどの部署でやっているのか。

答 30代と40代が圧倒的に多く約9割、男女比では男性32%女性68%となっている。お礼状は業者が領収書と一緒に出す形で外部委託している。

税務課

問 徴収率の状況は。以前は与論町が1位だった。昨年度から徴収率が退職し、若干徴収率が下がっている。

答 毎日通るところであり、奇麗にして気持ちよく納税できるようなしていきたい。

問 ピアヌパンタの立て看板をきれいにしてほしい。

答 差し押さえが2件で780万6千円あるが税目は何か。

答 固定資産税である。

町民生活課・こども園児童発達支援センター健康長寿課・保健センター・包括支援センター

問 新しく訪問看護ステーションができた。今後、介護サービス環境がどう変わるか見解を伺いたい。



訪問看護ステーション

問 訪問看護ステーションができ、安心して暮らせる町づくりに一歩進んだと思う。病院でしか受けられなかったサービスが家でも受けられるようになる。

問 在宅支援人材育成事業について説明を。

答 これは福祉サービス全般の人材育成のための費用である。福祉関係は離職も多く、働く方がモチベーションを上げるための研修や続けるためには何が必要かを一緒に考えていきたい。

問 こども園などの職員の処遇改善はどうなっているか。

答 処遇改善については令和4年1月から国の方の後押しもあつり、介護職、看護職、こども園職員等に調整額をつけている。

問 火葬場の屋根の老朽化が進んでいるようだが。

答 今年度実施設計をし、来年度大規模改修を予定している。

環境課

問 美ら島づくりについての説明を。

答 300万円については緑化推進員22名の人件費、差額の約500万円は植栽スタッフ2名雇用分の人件費、残り30万円ほどが材料費である。

環境課

問 ゴミ袋に名前を書

教育委員会

くことは人権侵害である。撤廃できないか。

問 ウミガメの上陸頭数、産卵頭数がアカ、アオで示してあるが、ここ数年の動向として減っているのか。増えているのか。横這いなのか。

答 10年間の平均だと上陸419頭、産卵が279頭となっており、年々減少傾向である。

問 リサイクルセンターでの家庭用パソコンとモニターの受け入れはどうなっているか。

答 パソコン、モニター、一体でも別々でも受け入れている。

問 中ンジャゴの町指定文化財に向けた取り組みは、文化、地形学的な意味で郷土学習の中でどの様に生かすつもりか。

答 羽衣伝説や集落の中で使われていたことなど伝説、民俗学の形で伝えていきたいと考える。



羽衣伝説の中ンジャゴ

問 教員住宅の修繕、住環境整備はどのように行ったのか。

答 各教職員から上がってきた修繕要望の箇所について、予算をつけて対応している。

問 B&Gの創始者・

笹川良一氏が、旧統一教会と密接な繋がりがあると報道されているが、子供たちに影響が出ないか。

答 純然たる海洋教育の日本財団の理念と、全国的な子供たちとの交流ということをやっている。

建設課

問 去年の決算審査で、漁港の浚渫した砂を陸揚げしてストックし、その後コースタルに投入するとの説明があった。砂をどこにストックしたのか。投入予定はどうなっているか。

答 ストック場所は堆肥センターである。投入の発注はまだされていない。

問 住宅整備においては、プライバシーを守られるように配慮が必

要だと思うが。

答 住宅周辺のプライバシーについては設計段階で検討したい。

問 瀬良座住宅の駐車場はどうなったのか。

答 3号棟の前北、外構の拡張する予定がある。その時、駐車場等の整備についても検討する。

問 大金久のくじり橋のところだが、相当汚い状況となっている。何とかならないか。

答 そこは準用河川で建設課の所管である。下流を開けたら波が打ち込んだとの報告もあるが、専門家の意見も聞きながら整備していきたい。

問 空港トンネルにゴミが溜まっている。定期的除去を行い、気持ちよく通れるように

してほしい。

答 トンネル内道路の舗装工事を近いうちに行う。その後も維持・管理に気を付ける。



空港トンネル

問 朝戸の住宅整備の進捗状況はどうなっているか。

答 用地買収は済んでおり検討を進めている。

産業課・耕地課 農業委員会

問 パイナップルやアボカド、マンゴー等の実証実験が行われているが、将来性や見通しはどのように考えているか。

答 パイナップルは、断定はできないが良さそうな気がする。アボカドも20種ほど導入しているが、判断には時間がかかる。マンゴーも同様である。

問 キジの駆除については数字が出ているが、カラスは1羽も駆除してないのか。

答 令和3年度は猟友会の銃の射程距離が短く駆除できなかった。今年度から射程距離の長い銃を持つ人が入り、21羽ほど駆除できた。

答 離島漁業再生支援推進交付金の成果について伺いたい。

答 約1200万円程の予算だが、簡易浮漁礁を毎年一基を目標に設置している。これが水揚げに直結する。その他、サンゴ礁造成や

藻場造成、有害生物駆除も行っている。シラヒゲウニの放流もしたが、餌となる藻がなくなかなか育たない。

商工観光課

問 持続可能な観光地域モデル市町村形成事業で全国8市町と連携とあるが、この8つの市町というのはどこか。

答 北海道のニセコ町と弟子屈町、岩手県釜石市、長野県小布施町、京都府宮津市、徳島県三好市、熊本県小国町と与論町で8市町となる。協同で地方創生交付金を申請して3年間取り組むという形で進めている。

問 沖縄北部地域連携旅行商品造成事業の中で行われた地域商品券アンケート調査の結果はどうだったのか。

答 オンラインアンケートという方式をとっており、オンラインで見られますが、後ほど資料を提出したい。

問 ウドノスからリーフの沖に向かって泳いでいる遊泳客があり、漁業関係者から危険との指摘が来ている。しっかりと危険、注意標識の設置等対策をお願いしたい。



ウドノスビーチ

答 危機管理がされていないという事でブログなどで表示対策を取った。今年度から、マリン関係のルールづくりを事業者を含めて進めている。

問 度々延期のヨロソマラソンだが、今後の方向性を伺いたい。

答 3月5日を予定していたヨロソマラソン大会だが、総合的に判断して30回記念大会は、来年の11月19日開催となった。

特別会計

水道課

問 残業が多いのは町民福祉課と水道課である。しっかりと残業手当を払っているのか。

答 他課と一緒に上限5%というのでやっている。会計年度職員については全額支給している。

問 有収率が去年と比べて1%下がっているその理由は何が考えられるか。

答 老朽管が増え、更新が間に合わないのが原因だと思われる。

問 プラントの改修をする時期に来ていると思うが、改修計画はなされているか。

答 更新時期に差し掛かっており、来年度から更新計画を作成していきたい。

問 現在の水質について伺いたい。

答 建設当時は、硬度400近くの水から200前後に落として配水しており、改善したと喜ばれた。現在は生活水準の高度化や新しい機器に支障が出るなどの意見がある。課内では、全てまとめて立て替えを検討しており、更なるその硬度を下げる事の出来る施設を作っていければと思っている。

問 現状も踏まえて、将来にわたって、水道料金の改定は必要なのか、今の課長の考え方を聞かせてほしい。

問 石灰が多くていろんな機器が全く使えない。本当に困っている。来年頃計画するじゃないかと来年から計画してほしい。



老朽化した浄水場

答 更新計画を立てる上での正確な事業費用を算定するために、固定資産の整理を行いその後更新計画を立てる予定であり、早急に対応したい。

問 現状も踏まえて、将来にわたって、水道料金の改定は必要なのか、今の課長の考え方を聞かせてほしい。

答 現状では黒字経営になっているが、新しい施設を立てると、起債の負担があるので、多少の転嫁はやむを得ないと思う。

国民健康保険特別会計

問 厚生連検診の若年の受診率は。

答 40代の受診率は、40%ほどになっている。

問 国民健康保険税の現年度分徴収率を前年度と比較すると0.6%の減となっている。減の理由は何か。

答 専門の訪問徴収員が辞めたので徴収率が下がっている。今後は、納税相談等もしながら、徴収率を上げていく。

※紙面の都合により、質疑の掲載は一部となっている。

令和3年度 決算審査意見 の申し入れ

令和3年度決算審査の結果、町議会としての意見を集約し、次の通り議長から町長と教育長に申し入れを行った。

記

1 ふるさと納税については、寄付者や返礼品など、細やかな分析が必要である。今後の特産品開発や、販路拡大など、また、地域おこしへの足掛かりとなる多くの情報が得られるものと考えられ、それらを生かして地域産業の活性化に取り組むこと。

2 税金の徴収率が下がっていくことが無いよう徴収員の配置や、週報・立て看板などを活用し徴収率や、納税



意見の申し入れ

意識の向上に努めること。

税は公平公正でなければならぬので、不納欠損、時効にならないよう気を付けること。一人一人の滞納者の実情を把握し十分に気を付けて業務を進めること。

3 業務量や人員確保、待遇改善など、各課において様々な問題がある。問題を放置するのではなく、一つの課題を解決するための取り組みが必要であり、役場全体で働き方や、働きやすい職場環境づくりへの改善に努めること。

4 野良猫の糞害問題が多く発生しており対策が必要と考えられる。農業用廃ビニールの処理など現在島外に処理を依頼しているゴミの処分について、今後処理受け入れについて事情が変化することが考えられるものは、関係各課が連携し、急な変化に対し備えが必要であることから、本町内での処理も含めて検討すること。

5 与論高校存続のため留学制度の充実が必要である。今後留学者の確保のためには、特色のある教育が必要と考えられる。そのため、中高一貫教育において、相互乗り入れ授業を活発に行うことや特色のある海洋教育の充実を図って行くことが必要である。

所と調整していくことが必要と考えられる。給食センターの建設方法については、民間活力の利用などあらゆる選択肢を検討して進めてもらいたい。

6 浚渫した砂の海浜投入時は、異物が混入し怪我することがないよう注意をすること。

公営住宅居住者への住居周りの環境整備については、居住者による除草作業の啓発とともに、プライバシーへの配慮について留意していただきたい。

空港・港湾における検温業務委託への指導監督が必要である。

道路工事等は、緊急性や、交通量の多い箇所から取り組み、交通事情等を考慮し、極力短期間で済むように配慮すること。

7 牛糞尿の堆肥化処

理においてYM菌が本町では最も有効と思われる。関係各課で連携し早急な取り組みが必要であり準備を進めること。

漁業においては、離島漁業再生支援交付金等を活用し有効な種苗放流に取り組んでもらいたい。

8 農道や、圃場整備における法面の整備について簡単に崩壊がないよう施工に注意し、地権者や地域の要求に応える努力をすること。

9 デジタルマーケティングの更なる活用を進めまた、持続可能な観光地としての方向性、取り組みを考えると共に、地域における問題点、宿泊業者や、観光関連事業者の意見を拾い上げ新たな対策、支援策を進めて戴

きたい。

観光地としてのマネジメント・社会的な持続可能性、文化面からの持続可能性、観光地化の持続可能性について総体的に押し進め観光事業全体が向上きになるように努力すること。

委託する事業の契約は、分散できるものは分けて、委託した事業については管理監督を徹底して進めてもらいたい。

10 水道事業は緊急性の高い勤務内容であることから、時間外勤務手当については、適切な対応を図ることが必要である。水道料徴収について滞納金が発生しない努力をすること。淡水化プラントの老朽化に伴う更新計画について手遅れとならないよう計画を進めること。

一般質問

5人の議員が登壇、町政を問う

第7波に伴う新型コロナウイルス
南議員 島民や観光客の往来が増え新型コロナウイルス(第7波)の感染者が島内においても増えてきている。飲食時や家庭内感染が主流となっているが与論町としては今後の感染対策をどのように図るか伺いたい。

町長 与論町においては、今後の町内における感染対策について、飲食時や家庭内感染が



南 有隆議員

新型コロナウイルス第7波の対策は 町長 ワクチン接種率を高め重症化予防に努める。

続いていることも念頭に、専門家を招いて研修会を行い、「離島であること、限られた医療資源であること・社会機能の維持が必要であること・高齢者の割合が多く、ひととひとの距離が近いことなどからきめ細かな対策が必要である。」と助言いただいた。



4回目ワクチン接種風景

ワクチン接種を進めることが重症化予防に

は効果があるので今後も集団接種と医療機関施設における個別接種で接種率を高めていく。

南議員 最近ではマスクの使用方法も変わってきている。厚生労働省のHPにも熱中症予防の観点から必要のない場面ではマスクを外す事を推奨しているが町としてはどのように町民に周知するのか伺いたい。

町長 戸別無線や週報等での広報を続けていく。その上で、国の動向と同様に熱中症が懸念される場面など時と場にに応じて自己責任において

判断し、外しても差し支えないと思う。

GIGAスクール構想によるタブレット端末の活用と取り扱い

南議員 GIGAスクール構想によるタブレットを使用した授業を行っていると思うがどの程度授業に活用しているのか伺いたい。

教育長 インターネットを活用した調べ学習をしたり、体育の授業で自分の運動する姿を写真や動画で撮影し自分の動きを振り返り改善する際に活用している。また全員の意見をモニター上で共有することが可能となったこ

とで、これまで手を挙げて自分の意見を発信することが苦手な子供の意見にも目を向けることができる。

南議員 タブレット端末の家庭内での扱い方やネットトラブルなどの注意喚起はどのように指導しているのか伺いたい。

教育長 児童生徒には、教育委員会から、情報モラルに関する配慮事項も情報提供している。保護者や教育関係者を対象とした教育委員会主催のインターネット安全教室も開催した。インターネットトラブルの事例をもとにフィルタリングの設定やパスワード管理の重要性についての講演会だった。今後も、学校と家庭と連携しながら一層の啓発に取り組んでいく。

持続可能な本町農業の振興対策を

町長 YM菌実証試験にむけての調整を行っている。



沖野一雄議員

持続可能な本町農業の振興対策

沖野議員 環境保全

型農業の中心課題とも言わべき、畜産糞尿の処理及び良質の堆肥生産に向けた解決策として、短期間で糞尿の高温発酵及び堆肥化が可能とされる「特許技術・YM菌」がいま俄に注目されているが、その導入・活用についてご意見を伺いたい。また、導入しない場合、この喫緊課題をどう解決していく考えか、合わせて伺いたい。

町長 関係課の産業課と環境課にて先般視察を行ったところである。現在堆肥センターの処理において苦慮している雑草種子の処理

のための温度上昇も10日程で90度以上に上昇することや、堆肥化の作業工程自体もタイヤショベルでの切り返しのみで45日間で堆肥化が行えることなどから、堆肥の資質向上や作業の効率化など、期待の持てる先進技術と認識している。

現在、このYM菌実証試験にむけての調整を行っているところであり、本町においても視察先と同様な成果が得られるかの検証を今後行っていく。



与論町堆肥センター

沖野議員 農業の生産効率化を図る上で、作目別の生産技術及び

経営改善に係る農家に対する指導面等において弱さが見られることから、同じ作目間でも農家毎の生産力(技術)において格差の拡がりを生んでいる。この農

家個々の格差解消(底辺層の引き上げ)と高い生産技術の普及・平準化を徹底していく必要があると考えるが、今後の対策の進め方などについて伺いたい。

町長 農家個々の高い生産性の維持や向上を図るうえで、後継者の育成や農地の集約を図りながら、これまでの経営実績を踏まえ中長期目標の設定及び先進技術等を活用していくことが重要であると考えている。現時点で行っている書面での技術提供や各農業部門においてのオンライン研修の開催、営農指導等の定期開催など

も関係機関と連携し取り組んでいく。

沖野議員 持続可能な環境保全型農業の振興発展を目指す観点から、農家が利用している有機質肥料(未熟堆肥を含む)と科学肥料の使い分け、農薬等を組み合わせた適正な使用方法など、改善すべき重要課題の一つとなっているが、今後の目標と改善策の具体について伺いたい。

町長 環境保全型農業の基本的な考え方は、土作り等を通じて化学肥料、農薬の使用等による環境負荷の軽減に配慮した持続的な農業を行うこととされている。農作物の栽培圃場や管理の仕方によって土壌中の養分含有量は異なるため、最も重要となるのが土壌診断の診断結果に基づく土づくりであると考えている。

土壌診断結果に基づいた適切な施肥管理を行うことで各種作物に適した土づくりを行えることや、堆肥利用では補えない部分のみを化学肥料で補うことで施肥過剰の防止にも繋がり、環境に配慮することはもちろんのこと、肥料コストの低減も可能となる。

今後の目標と改善については、農業における土づくりの重要性について各種農業関連の会合においてサトウキビや園芸作物等栽培研修会をはじめとする研修会などを実施していくことや、土壌診断センターの利用促進を図り、科学的なデータに基づいた圃場環境整備を行うことで化学肥料等の低減とコスト削減、環境に配慮した農業経営が行われるよう関係機関と連携し取り組んでいく。

海浜の景観保全と利用環境の改善を

町長 景観条例の制定に向けて準備を進めている。



品覇海岸の伐採現場

海浜や海浜背後地の景観保全、自由に海浜利用できる環境づくり
喜山議員 船倉海岸をはじめ品覇海岸など海浜背後地の開発が進んでいる。住民や観光客が自由に海浜が利用できる道路確保と景観保全等を行うために地権者や開発業者に対し積極的に協力要請を行うなど、制度作り等に取組んでいるか。



喜山康三議員

町長 国・県や関係機関と連携を図りながら、週報等による周知を図っている。
 現在、景観を守っていくために町民の賛同を得られるような景観条例の制定に向けて準備を進めている。

防災無線運用と 組合消防体制

喜山議員 防災無線の放送内容、放送時間の長さ、火災発生時における通報と火災発生場所が大きく離れていることやデジタル音声は聞き取りにくいなどの問題は依然として改善されていない。見解を伺いたい。

町長 放送時間や内容について見直しや検討を行ってきた。
 火災や救急要請の際の自動音声については、従来の音声の改良を行い肉声に近い音声

で対応している。火災発生時における防災無線からの放送と火災発生場所の相違等については、個人情報観点から特定した発生場所の放送内容のお知らせができないため、近隣の公共施設等の目標物を放送している。

消防団員にはSNSを活用して特定した位置情報を通じ迅速に消防活動を行っている。

喜山議員 消防設備導入の在り方、組合負担金の見直しについてはどの様な見解を持っているか伺いたい。

町長 消防組合負担金については基準財政需要額7割、均等割3割で負担運営している。
 仮に解散した場合、本町において消防組織法により新たに消防長1名、署員3名の配置

が必要となる。また、解散初年度の必要経費も多額となり、財政が極めてひっ迫すると考えられる。それぞれの基準財政需要額を基本とした負担金で運営していくことが望ましいと考えているが、今後の見直しについては慎重に検討を重ね協議を進めていく。

与論町の郷土 学習の取り組み

喜山議員 郷土学習をどの様に捉え、今まで何をどの様に取組んできたか。今後、どのような郷土学習を進める考えか伺いたい。

教育長 「郷土を知り、郷土に学び、郷土の伝統と文化を尊重し、我が国と郷土を愛する態度を養い、郷土を創造・発展させる教育」と考え、様々な視点から、各種の取り組みを推進

している。その進め方は、教育委員会の重点施策1では体験活動の充実、2では「郷土・伝統文化教育の推進」や「海洋教育」を、5では「文化財調査・保存・活用」といった項目を位置付け、さらには「特色ある教育の推進」も行っている。

重点施策2の「郷土・伝統文化教育の推進」では、ユンヌフトゥバ学習、ユンヌ検定、与論カルタ大会、与論ことわざカレンダーの揭示、十五夜踊りや三味線(三線)などの保存と継承支援等を、道徳ではユンヌのことわざを生かした授業を進めている。

「文化財調査・保存・活用」では、特に与論城跡の国指定に向けた発掘調査と課題の明確化、住民への啓発活動を推進していく。

学校の施設・設備の安全対策は

教育長 毎月点検を行い安全性を確保している。



大田英勝議員

学校の安全対策

大田議員 2021

年4月に宮城県白石市の小学校で防球ネットの支柱が倒れ、児童2人が死傷した事故を受け、学校設備の詳細な点検が全国で実施された結果、「安全性に問題あり」と判断され設備が多数見つかったとの報道があった。そこで、本町は施設・設備の安全点検を行ったのか。その結果はどうだったのか伺いたい。

教育長 本町でも県教育委員会からの通知を受け、緊急安全点検を実施した。安全点検の結果については、与論小、茶花小、与論中では危険箇所は確認され

なかった。那間小では古い木柱があり、直ちに倒れる恐れはなかったが、将来的に危険が生じるであろうと判断し撤去した。安全点検は各小中学校で毎月実施しており、教育委員会との合同安全点検も年1回、夏休みに実施している。さらには地震・風水害の発生直後も迅速かつ適切に安全点検を実施し、日常の安全性の確保に努めている。



小学校の遊具

大田議員 去る8月9日、曾於市の小学校でイチヨウの枝が折れ

て落下し、下で芝刈りをしていた校長先生が下敷きとなって亡くなった。このことを受けて、本町ではどのような対策を講じられたのか。

教育長 本町では各

小学校長へ安全点検を実施し、事故につながるリスクが高い樹木については、立入禁止等の応急措置を施すよう依頼した。安全点検の結果は、全ての小中学校において直ちに倒伏や落枝の危険が高い樹木は無かった。しかし、「素人目による判断のため不安が残る」という意見や、「今後のガジュマルの大径木化による倒伏や落枝への不安がある」との課題も出されており、今後の対応については専門家の調査を含めた検討をしていく。

鹿児島学習定着度調査の結果

大田議員 本年1月

に行われた鹿児島学習定着度調査の結果が、誠風第304号で紹介されていた。小学5年生の結果は、各教科とも地区や県を大きく上回っている。中学1年生と中学2年生も地区や県と概ね同等であるが、トータルでは僅かに地区・県を上回っており喜ばしい結果となっている。各学校における努力や取組に敬意を表するとともに、更なる学力向上のために今後どのように取り組んで行くのか。

教育長 学力調査での

好結果は、子供たちの学力向上への取り組み、学校の先生方の尽力、そして子供たちを直接応援・支援する保護者の総合力の賜である。小学校においては、

学力向上に対する学校全体としての重点的な取り組み、教科指導、基本的な生活習慣の確立等幅広い視点で良さを明確にして、教科指導、基本的な生活習慣の確立等幅広い視点で良さを明確にして、一層の充実を期したい。各学校も、学力向上に関する取り組み状況について、研修会を開催し重点的な策を立て取り組んでいる。

教育委員会として

は、子供たちの知識や思考力、学びに向かう力等の状況をつぶさに把握しながら、時代を見据えて不易と流行を見極め、必要な施策や方法を導入し、各学校での授業改善を進め、児童生徒の「将来に生きて働く確かな学力」を身に付けさせることができるよう取り組んでいく。

YM菌(超高温好気性発酵菌)の活用を図れ

町長 堆肥センターを活用し実証実験を行う。



原 栄徳議員

堆肥センター機能強化

原議員 現在の堆肥センターは畜産農家、市民の堆肥利用者にとって十分に満足できる堆肥を生産、提供出来る機能と体制が整っているとは思えない。現況と与論町としての今後の堆肥センター運営のあり方や方向性について伺いたい。

町長 堆肥センターに持ち込まれる原料の糞尿は生糞の状態では水分も高い状態にあり、水分調整や温度上昇に大変苦慮している。この解決策として、今年度導入予定の自走式木材破砕機を活用し畜舎への敷料提供体制の強

化を図る予定となっている。

期待できる効果としては、敷料供給により牛舎からの糞尿の流出を防ぐことや、持ち込まれる原料に副資材が混入するので堆肥化に必要な通気性が確保される。水分調整もより効率よく行えるため、これまでより短期間で堆肥化が期待できる。また、先進技術の超高温好気性発酵の「YM菌」導入も視野に入れて実証実験を予定しているので、敷料生産供給と併せて良質な堆肥生産・供給に努めていく。

YM菌(超高温好気性発酵菌)の活用、導入

原議員 現在、世界において産業廃棄物の処理のあり方が問題視されている。与論町でも同じである。経済活

動に伴いさまざまな施設から発生する汚泥、食品残渣、焼酎廃液、家畜の糞尿等の有機性発酵物の処理に困っている。YM菌の活用により有機性発酵物を良質な堆肥に変えて土に戻すことが最も重要であり、循環型の社会形成が成り立つと思われるが与論町としての考え方を伺いたい。

町長 家畜の糞尿、食品残渣、汚泥などの有機性廃棄物を超高温好気性発酵にて分解する「YM菌」について、堆肥センターに持ち込まれる原料の糞尿が堆肥化できるかの実証実験を行う予定となっており、現在試験へむけての各種調整を行っている。

この「YM菌」については、単に家畜の糞尿だけではなく、様々な有機性廃棄物に対し

ても効力を発揮するので、関係課とも連携し島内で発生した処理の行える有機性廃棄物は島内処理を行い、堆肥化や土に戻すことが出来る様循環型社会の形成へ向けて取り組んでいく。



牛糞搬入状況



焼酎廃液搬入状況



食品残渣搬入状況



汚泥搬入状況

▶ YM菌とは



株式会社山有の山村正一が発見したバチルス属に属する発酵菌。1995年に菌体を同定し、特許微生物寄託センター(NPMD)に寄託された細菌群です。高度好熱性細菌株と同定分離されています。YM菌は、90℃以上の超高温好気性条件下で活発に働き、様々な有機性廃棄物を分解する好気性細菌です。

四十五日で完熟堆肥化できる発酵菌

わたしもひとこと

プロフィール

- 氏名 福 由美子
- 住所 与論町川
- 役職 島想会代表



福 由美子氏

「コロナ氏に翻弄される日々の中で」

二〇一九年十二月、中国から原因不明の肺炎「新型コロナウイルス感染症」なるものが私達の平和な島までが恐怖に包まれる。持病がある方に取っては重症化するリスクが考

えられるため、不安な日々を強いられることとなった。
二〇二〇年十一月、島想会を立上げ「急患搬送は本人家族の意志を尊重し、奄美ドクターヘリによる大島病院搬送と合わせて、沖縄ドクターヘリによる、沖縄医療機関への搬送を併用すること」について、署名活動を開始。与論町及び関係機関への要望活動も合わせて進める。事務局を弊社に置くことで事務処理関係も滞りなく迅速に行うことができた。
島内外の積極的なご支援もあり三、六二六筆の署名が集まるのに時間はかからなかった。島民・関係者が如

何に欲していたかの証に他ならない。
そんな矢先、総理と厚労大臣の「県境を越え近隣で助け合う事」との報道や、受入側の浦添総合ドクヘリ基地病院の救命救急センター長のお力添えは大きな力となった。



ドクターヘリ

二〇二一年三月、署名簿をつけ塩田知事他両県の関係各所へ要望書を提出することができた。二〇二二年六月二〇日、両県知事により協定の締結がなされ、七月一日より運行開始、遂に島民の悲願

成就となる。それまでに二年の期間を要した。運行開始後、四件の搬送依頼があった。

助努力で予防医学に努め、健康は自分で守ることを肝に命じたいものです。

「ドクヘリは重症患者対応、現場対応を担う。としており、緊急度の低いケースは、他の搬送手段として南西諸島をカバーする多目的ヘリの整備や固定翼機の整備が必要。それには一番島民の声が重要。」と、米盛センター長は仰る。子や孫の未来のためにも、離島の宿命と諦めず、「南西諸島の航空医療を整備し生命の地域格差をなくす事」を実現し、同じ国民として離島医療の安定充実を図って

「人があふれ、笑顔があふれる与論島」をめざし、私達が選んだ政治家様方のご活躍を期待申し上げ、官民一体となりより良い島創りができたらと思うことです。

いたたく事こそ、本土との医療格差の是正であると思うのです。しかし、鹿児島県が負担している運航費用があることを忘れてはならない。出来る限りの自

「一人があふれ、笑顔があふれる与論島」をめざし、私達が選んだ政治家様方のご活躍を期待申し上げ、官民一体となりより良い島創りができたらと思うことです。

《編集後記》

感染者の全数把握の簡略化が始まり、町内での感染者数の発表もなくなりました。これからは、自らの責任で新型コロナウイルスに向き合うことが求められる。

9月定例会で、国頭村との姉妹盟約についての議案が上程され、全会一致で可決された。国頭村と与論町は昔から交流・交易でお互いの生活を支えてきた歴史がある。戦後、北緯27度線で分断されたが、海上集会やかがり火大会などで復帰運動を続け、1972年に祖国復帰を果たした。復帰後も、節目ごとに海上集会やかがり火大会の再現等で絆を深めており、姉妹盟約締結を機に両地域の更なる繁栄と発展を願うものである。(大田)